

私たち民医連は、無差別・平等の医療と福祉の実現をめざす組織です

市民による女川原発の再稼働を問うシンポジウム

原発のない東北の復興を考える

日にち▶ 2017年1月29日(日)
時間▶ 13:00~16:30(開場12:30)
場所▶ 仙台国際センター大ホール

主催/ 脱原発をめざす宮城県議の会・市民による女川原発の再稼働を問うシンポジウム実行委員会
連絡先/ TEL・FAX:022-373-7000

みやぎ民医連

発行所 宮城県民主医療機関連合会
仙台市青葉区木町通1-8-18
〒980-0801 田村ビル5F
TEL 022-265-2601
FAX 022-263-8266
e-mail:dai@miyagi-min.com
発行人 坂田 匠
1日・15日 月2回発行 1部 50円

とめよう! 原発再稼働 かえよう! 福島切り捨て政治 国と東京電力は責任を果たせ! 11・13ふくしま集会

今なお苦しむ福島、二度と原発の事故は起こさないで

セントラルキッチン 管理栄養士 松本 まりこ



会場いっぱいの参加者

福島で2016年11月13日、原発再稼働反対集会が開催されました。震災後、私の故郷福島への想いは強く深く、集会の案内を見たときには迷わず参加を決めました。全国各地から1500名の参加がありました。宮城民医連からは15名の参加者がありました。原発事故から5年8か月が経過した今もなお、苦しみに悶えている福島の現状を知ること

は、原発再稼働反対の運動に取り組み力になることを実感しました。集会の基調報告では「原発事故から5年8か月後の福島の現状を共有すること。原発再稼働を止め、福島切り捨て政治を転換するために『国と東京電力が責任を果たすことを求める100万人署名』に取り組み出発点とする」ということが集会的な目的であると提起されました。

続いて、浪江町の馬場有町長から特別報告がありました。「原発事故がもたらしたものは何だったのか? 学校・生活・産業、すべて崩壊した。産業や日常生活も。東京電力は本当に罪深いことをしてくれました。こんな思い

をするのは私だけでなく皆さん。90年の歴史ある浪江高校も来年は休校、廃校の危機にある。町内6つの小学校・3つの中学校の生徒が全国660校に分かれて勉強している。事故の原因究明も検証もない。そんな中で再稼働。事故を忘れさせない。風化させてはならない。原発事故は二度と起こしてはならない。町民の想いを発信していく。命ある限り。」と熱く訴えられました。重く心に響きました。集会に参加している多くの方々も町長の想いに心を揺さぶられていたのを感じました。また拍手には参加者の町長への激励と共感、共に闘う強い意志が込め

れ貯金を取り崩す生活であること、自治体に相談しても改善されない現状が切々と訴えられ、行政への強い要望が語られました。

その後、被災各地域や団体の方々から「帰りたいけど帰れない。人間らしく暮らす権利さえ奪われた。住民の格差や分断が起きている。一等、現状や課題等が報告されました。故郷の復興を願う気持ちと、国と東京電力への怒りを、100万人署名運動の力にして頑張りたいと思います。

ひめゆり祈念資料館の見学では、沖繩戦を生き抜いたひめゆり学徒隊の方のお話を聞くことができました。自分のような思いはして欲しくない、二度と同じ事があってはならないという思いがあるからこそ、当時の事を話して下さっています。現地で学ぶことは、机上で学ぶだけでは感じられないことが沢山あります。今の暮らしが当たり

前ではないことを実感するとともに、平和を願う思いを無駄にしないよう、伝えていかなければいけないと強く思いました。

また、より多くの民医連職員が現地で学ぶ機会をもてるよう、沖繩の支援連帯を続けていきたいと思います。



基地建設に反対する行動

お正月と言えば我が家では神棚を祭っているため、年末年始に行われる風習を続けています。昔ほどの家でも行われていたと思えますが、今では少なくなってきたのでしようか。▼年末に餅の準備を始めます。28日か30日に餅をつき(29日は縁担ぎのため行いません)、2段重ねにするため下段になる分は少し大きめに、上段は少し小さめに丸めます。数は神様の人数分(七福神)と稻荷様、仏壇用と20個以上となります。▼10年ほど前までは義母と、時には義妹も応援に来てもらい数名で行っていたこともありましたが、今は1人での作業となりました。餅をついた後、適度な大きさにちぎり、そして丸める行程中、餅が硬くなってきたら、最後には形が整わずいびつになつてしまふこともありま



アンケート結果を報告する宮沼会長と矢崎理事

宮城民医連は、2016年12月6日、県議会議員への災害公営住宅訪問調査結果について報告を行いました。宮城民医連が2016年9月10日、11日に塩釜市、多賀城市、仙台市(あすと長町、泉中央南)、東松島市、七ヶ浜町、利府町、松島町の計1654軒の災害公営住宅を訪問、563件の調査結果にもとづいたものです。

県民の声(民進系)6、共産6、社民1、無所属1、自民1、の5会派から15人の議員が参加。宮城民医連からは宮沼弘明会長、矢崎とも子理事、坂田匠事務局長、加藤隆雄事務局長、金田基理局長、金田基理局長が参加。災害公営住宅に入居され



議員からの質問

2016年11月13日から16日まで、平和部門員含む6名で第2回辺野古支援宮城民医連独自行動を行いました。辺野古支援行動、南部沖繩戦跡、米軍基地の見学など4日間の行動を通して、基地建設の問題を考へるにあたって、沖繩戦の歴史について学びました。

辺野古支援には全国各地から参加しており、比較的年配の方が多くみられました。政治への憤りなど、参加者一人ひとりが沖繩への思いをもち、闘っていることが分かりました。



「不屈」のプラカードを掲げる参加者

災害公営住宅訪問調査の報告会

70歳以上4割、半数が生活苦しい、7割が医療費免除の継続復活を希望

宮沼会長が調査結果について、70歳以上の入居者が4割を超えていること、震災後に半数近い被災者が仕事を失ったこと、5割の方が経済的に苦しいと感じていること、健康に対する不安が多数であること、被災者医療費免除の継続・復活を望む方が7割を超えていることを報告。行政は被災者の生活維持に必要な支援をすべきと訴えました。

矢崎理事は、6件の実例を紹介。3年前の入院費22万円を分納してい

第2回 辺野古支援宮城独自行動

平和を願う思いを伝えていきたい

泉病院 事務 鈴木 彩可

災害公営住宅の少なくない被災者が、経済的な困難を抱えながら日常生活を送っています。被災者医療費免除、家賃負担を始めとした生活上の困

難な実態を改めて検証し、被災者の思いに寄り添う支援を続けていきたいと思います。(記事: 田中 千枝)

健康手帳

お正月と言えば我が家では神棚を祭っているため、年末年始に行われる風習を続けています。昔ほどの家でも行われていたと思えますが、今では少なくなってきたのでしようか。▼年末に餅の準備を始めます。28日か30日に餅をつき(29日は縁担ぎのため行いません)、2段重ねにするため下段になる分は少し大きめに、上段は少し小さめに丸めます。数は神様の人数分(七福神)と稻荷様、仏壇用と20個以上となります。▼10年ほど前までは義母と、時には義妹も応援に来てもらい数名で行っていたこともありましたが、今は1人での作業となりました。餅をついた後、適度な大きさにちぎり、そして丸める行程中、餅が硬くなってきたら、最後には形が整わずいびつになつてしまふこともありま

憲法9条を守り生かす宮城のつどい 憲法9条で平和を守ろう

仙台国際センター大ホールで、12月4日、憲法9条を守り生かす宮城のつどい2016が開催されました。1600名分の資料がなくなる程の参加でした。

オープニングは、日本国憲法の前文と憲法9条の朗読、合唱。聞くだけでも、すばらしい憲法だと感じました。

東京大学・東北大学名誉教授の樋口陽一氏が「75年前の12月8日のことから話しましよ



樋口陽一氏

う、日本国憲法をどう生かすか」のテーマで講演。「75年前の12月8日、日米開戦がラジオで放送され、国民学校1年生だった私が『えらいことになった』とひしがすくんだ」と話し始めた樋口氏。「1945年8月15日終戦は、強制された生活からの解放。1946年11月3日に日本国憲法公布。その頃は憲法に対して発言できた時代であり、押し付けられた憲法というのは誤り。自民党憲法草案は、



憲法を守りましよう提案

憲法の前文を全否定する内容だが一つ一つの条文は、注意深く作られてある。人権にも手を加えており、非常に危険である」と話し、自分で考えることがいかに大事かを強調



講演を聞く皆さん

最後に、自衛隊の南スーダンからの撤退を求め、日本国憲法を確信とし、未来へ歩もうという内容のスピーチを拍手で確認しました。憲法9条は、世界の宝。9条を守ることが、平和

連載 33

私の好きな憲法は何条?

古川くりの木保育園 園長 鶴谷 美奈

保育現場に携わって早いもので20年がたちました。これまで数えきれない子どもたちと出会い卒業していった子どもたちを見送るたび、子どもたちの未来(どんな大人になっっているのだろう)を想像してきました。こうして仕事を続けてこられたのも、いつも子どもたちから笑顔や元気を分けてもらっていたからこそだと思つづく思います。それだけ保育は魅力的でやりがいのある仕事だと感じています。そんな思いもあり、一番に

思い浮かんだ好きな憲法は9条でした。今の当り前の生活や暮らし、子どもたちの笑顔が見られるのも「平和」があつてからこそだと感じます。一昨年、戦争法が可決されてしまいました。戦後70年守り続けてきた平和憲法をこれからも守り続けなくてはと思います。それが私たち大人の唯一未来ある子どもたちに残せるものだと思っています。

また、私の好きな歌の一つに「青い空は」があります。その歌詞には「青い空は青いままで子どもに伝えたい」というものがあつます。この歌を聴くたび、いつの時代も

戦の無い平和な世界が繋がって広がっていつてほしいと思うのです。去年は「保育園落ちた、日本死ね」というブログを発端に、今までにないほど保育園の問題がニュースやネットで取り上げられました。待機児童問題が私が住んでいる大崎市でも平成28年10月には100名ほどになり、都市部に限らず身近な問題になっていきます。また、処遇の低さや保育士配置基準は世界でも最低で(1、2歳児は6人の子どもに保育士1人、4、5歳児は30人の子どもに保育士1人)など、この基準では十分な保育ができないのも現実



2016年秋の福祉ウエーブ

「第33回全日本民医連循環器懇話会in鹿児島」 チームワークで 民医連らしいサポートを

坂総合病院 看護師 森 瑞歩



宮城からの参加者

第33回全日本民医連循環器懇話会が2016年11月11日~12日に鹿児島で開催されました。今回の懇話会は「民医連らしい心不全管理について考える」というテーマで開催され、今後の心不全患者さんとの関わり方を改めて考えるきっかけとなりました。1日目のシンポジウムでは心不全患者さんの症例について医師、看護師、セラピスト、MSWのシンポジストから意見を聴き、民医連らしい心不全管理について学びました。症例として九州の土地柄もあるのか日雇いの労働者やホームレスの方

が多いという話があり、アプローチしていくことが難しいという印象を持っています。経済的に困窮していることで医療費を払えず、症状が出て受診が遅くなってしまうこともあるそうです。そのような場合でも多職種連携し、行政の制度も活用しながら患者さんをサポートしているとのことでした。平等に医療を提供し、多職種と連携しているという面が民医連の強みだと感じました。2日目の分科会では、心不全で入院を繰り返さないための取り組みについての発表が参考となりました。心不全では内服、水分、食事と様々な面で自己管理が必要となります。生活習慣や、病気に対する理解を得られないことで管理がうまくできない場合もあります。当病棟でも心不全で入院を繰り返す患者さんがおり、関わり方に悩むことがあります。今回の発表で患者さんそれぞれの生活習慣を尊重し、その中で取り入れられることを探していく必要があると学びました。私たちの病棟でもパンフレットを使用し心不全指導を実施しているのですが、患者さんの個別性に合わせた指導を実践していきたいと思つています。2日間を通してチームワークで患者さんをサポートすることが民医連らしい心不全管理ではないかと感じました。私たちの病棟でも患者さんにとってより良い心不全管理の方法を提案できるように努めていきたいと思つています。



森 瑞歩

貧困の連鎖を実感する相談がありました。まだ、50代で包括の対象外ではありますが、口伝いで「包括へ相談」と教えられたと家族が来所。泉病院の支援で、何とか受診につながる予定です。南光台地域包括支援センター 社会福祉士 山岸 澄江

声 の こ え

去年もいろいろありましたが、あつという間に過ぎてしまいました。けれども、去年の怒り、不安、不満は今年に継続して持ち続け、民医連として、人間として「力」にしていききたいものです。坂総合病院 SW 加藤 由有子



【問題】上の絵と下の絵では7つのマチガイがあります！どこでしょう？(作・野上和彦)



クイズの解答は事業所名、氏名、職種を記し県連事務局に送ってください。メールは不可。ファックスは可。正解者に抽選で5人に図書カードを進呈いたします。余白に日頃考えている事などを書き添えて下さい。「声」の欄に掲載させていただきます。応募資格：臨時・パート含む県連職員。締切：2月15日当日消印有効。発表：3月1日号。2016年12月1日号答え①左・シャワールックの位置②窓際の子ボテン③プランがスポンジに④中央・お父さんの顔の傷⑤下・鳥の頭の羽⑥右・お母さんのタオルの長さ⑦右・子どもの短パンのライン・応募総数24件。当選者：佐藤千恵子/坂総合センター、小島ちよ子/ケアステーション/野崎の里、遠藤康子/宮城野の里、佐藤智絵子/くりこまの里、大迫香/南光台地域包括支援センター。(敬称省略)